



1



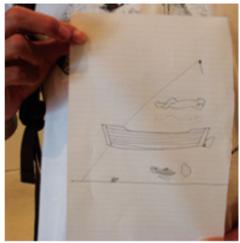
4



7



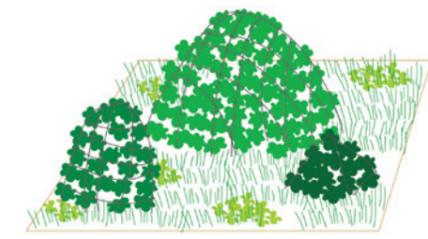
1



2



5



1



1



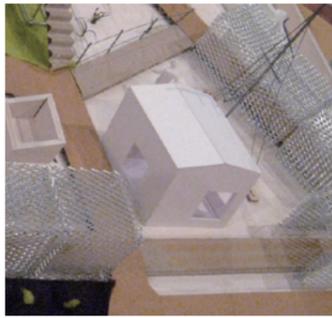
2



5



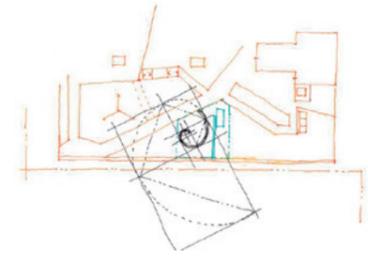
8



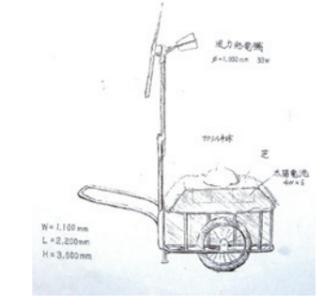
3



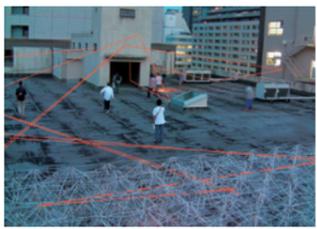
6



9



3



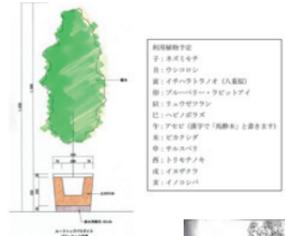
4



6



7



2



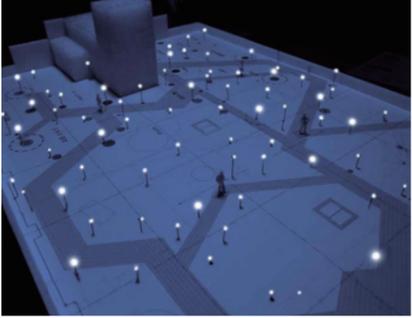
8



4



3



4

1 小川次郎+日本工業大学小川研究室 Ogawa Jiro+Ogawa Laboratory,Nippon Institute Of Technology

屋上にうち上げられたロスト・パラダイスの漂着物。こわれゆく小屋なのか、生い茂る草むらなのか、それとも、トップライトでつながるアナザー・パラダイスへの脱出口なのか。

2 西澤高男+東北芸術工科大学西澤研究室 Nishizawa Takao+Nishizawa Laboratory, Tohoku University of Art & Design

「ピクセルネスト・パヴァリオン」人口縮小の進む都市を元気づける方法を探るプロジェクト「City Switch」のシンボルとして製作した移動型パヴァリオン。「白のパヴァリオン」は三角形の空気膜ブロックを、「黒のパヴァリオン」は円形の再生プラスチック真空成形ディスクを単位として様々な立体に展開でき、前者は空気を抜くことで、後者はスタッキングすることでコンパクトな姿勢を実現。今年夏、出雲市でのWSにて使用され、今後シドニー、ベルリン等様々な都市での展開を予定。

3 キカ kika

マチを飛び交う情報は、電波のように目に見えなかったり、コマージュのように目に見えたりする。ルーフトップの情報を、ひとつはコヤでラッピングし、ひとつはラッピングされたコヤにして、どちらも見えるようにしました。

4 Point : 長岡勉+田中正洋 Nagaoka Ben+Tanaka Masahiro

「ルーフトップマウンテン」ルーフトップマウンテンは、曲がった板を棚状に積上げた小屋(山)です。中に入ったり、外をよじ登ったり、腰掛けたりして遊べます。積層した棚にプランター等を置く事で、屋上に緑が茂る山が簡単にできあがります。

5 小泉アトリエ Koizumi Atelier

「maid in paradise」向こうに見えるは象の鼻、そしてここは冥土でパラダイス。ベンチから海を眺める皆さんに、影のメイドがパラダイス産の冥土のみやげをお届けします。協力: AGC AGCマテックス株式会社

6 中央アーキ Chuoaichi

「Wood bank」単純に積み上げた木の塊を、もとの量を変えないまま少しずつスライドさせて、雲や石を眺めている時のような、いろいろな想像や発見のできる「状態」の塊のようなものを作ろうと思いました。

7 前田篤伸建築都市設計事務所 Maeda Atsunobu Architects

「RTPGL+」は星砂のステージ(RTPGL+400)からフェザのステージ(RTPGL+1600)に至る、街を俯瞰するステージであり、パラダイスと地上を繋ぐ装置である。構造:高木次郎 協力:株式会社ジョイント工業 施工:株式会社アドブレイン

8 川嶋貢介 Kawashima Kansuke

原っぱでピクニックをするためのキッチン。ピクニックシートを敷くように、何も無い芝生の上にテーブルクロスをふわっとかけると、そこにキッチンカウンターがあらわれる。協力: 田園緑化株式会社

9 archi-depot アーキデポット

(デザイン:seki-archi-kgu エンジニアリング:tabata-asd)「そらりウム2008BHA」空を眺める場所。マラバルテ邸やサヴォア邸の屋上へのささやかなオマージュ。関東学院大学建築学科が鎌倉材木座海岸で毎年制作しているビーチハットの材料を再利用し、角材による空隙組積工法でシースルーな分厚い壁体造った。

1 岩田とも子 Iwata Tomoko

「THE SKY CONSTRUCTION」朝を振り出し夜を振り出し、穴をあけて星をつくる。そこは空の工事現場である。

2 sullen サレン

「ちっちゃい山びおじさん Mr. Echo's hill」この外気にさらされた構造で調子いいフィジカルメッセージが効率よく響くかもしれない。「夕暮れ夜の屋上ガヤガヤ、空は明るく雲はマル、一発ボコンで身体と響く。」「マテリアルでこれ作れるよ。この構造。」

3 鈴木勲 Suzuki Isao

「リアカーハウス01」この作品は発電機能を持ち、人力で自由に動き回れるリアカーハウスである。屋上の通路をご自由に引いてください。

4 北川貴裕 Kitagawa Takayoshi

「屋上の景色を徘徊する夜のミツバチ」レーザービームを使用して屋上の空間を縫っていく作品。階段室の通路・建物の窓・ハンガー・蜂の巣・廃棄されたモーター、そして作品の隙間や建物に新しく開けられた穴にレーザービームを通過させ、鏡を設置して角度を曲げることで軌道を作り出していく。夕方頃姿が現れ空間を漂うレーザービームは、建物内外の新たな関係性を作りだしながら、昼間動き回る蜂にかわって夜の景色を徘徊する。

5 tokolo.com&AAO [野老朝雄+今北仁] [Tokolo Asao & Imakita Hitoshi]

「IZAT : Immediate Zip Aid tarp」Flat clothing (material), which can be part of a floor, wall or roof. つながる床であり壁であり屋根である平面衣服「unitedtubes」

単純な幾何学の仕組みを用いて結束し繋がる、身体のための小空間。遊具を目指すもの。タイヤ産業のチューブプレシ化が進む中、世界的な大量廃棄物となりうるタイヤチューブを素材として使用。協賛: ジャパンゴアテックス株式会社、フォトビジョンジャパン株式会社、AXIS GALLERY、YKK 株式会社、YKK スナップファスナー株式会社、YKK ファスニングプロダクツ販売株式会社 (五十音順) 田園緑化株式会社

6 牛島達治 Ushijima Tatsuji

「エネルギー」という事と戯れる。ルーフトップに発生したマイクロパラダイスの中で、視覚的な効果も含めどこまで可能性をひろげる事ができるか。できるだけ簡単で、できるだけ本格的なマイクロ風車発電の運用実験。

7 金子良/のびアニキ Kaneko Ryo / Nobi Aniki

横トリの期間、ホームレスをしています。毎日、昼間は街中のいたるところでパフォーマンス、夜はのびテントにて、昼間のパフォーマンスの映像を上映しながら寝ています。

8 山藤仁 Yamafuji Hitoshi

「Mr.Average」ご自由にお乗りください。高齢化社会をむかえた日本は近い将来、街の中に多くの車いすがあふれる風景が日常の風景になるのかもしれませんが、車いすは健康者にとっても新たな視点の発見を促す道具になり、今とは違う街の風景をもつくり出すのかもしれませんが。

1 深沢アート研究所/緑化研究室:カブ Hukazawa Art Laboratory: Cabu

風景:「空き地」 風景:「ハタケ」 殺風景だった屋上にできる景色。(ちょっと意識的に。)

2 山崎誠子 Yamazaki Masako

子・牛・虎・卯・・・十二支と植物のコラボレーション。棘のある肉厚な葉が竜の舌を思わせるから「竜舌蘭」という名がついたなど、植物の名前は動物の名からついたものが多いです。屋上の街に十二支の名前が入った街路樹を植栽しました!

3 HAMA Boom Boom!:岡田信行 HAMA Boom Boom!:Okada Nobuyuki

「HAMA Boom Boom!」HAMA Boom Boom!は、横浜の街中でミツバチを飼うプロジェクトです。「イキモノ」であるミツバチが、ルーフトップパラダイスの作品群が織りなす環境に棲み、各々の作品同士、屋上と外界を「つなぐ」小さなネットワーク要素となります ※蜜蜂を飼っています。刺す恐れがありますので、刺激を与えないようご注意ください。

4 生意気 Namaiki

「食べれるジャングル」がコンセプト。約7mのロングテーブルの上に多種の植物のリトルジャングル、土の中にはミズも。

1 佐藤朋子 Sato Tomoko

「ホス カワク」パラダイスの一角で、毎日何かが乾いています。想像しましょう。物干しの持ち主に、昨日・今日・明日、起こったこと起こること。そして列に加わりましょう。乾いて蒸発したら、パラダイスの上空にふわふわします。

2 加藤十矢野 共同アトリエ Kato+Yano Kyodo Atelier

光の力をかり影絵のように浮かび上がる標は、来訪者を作品の入り口へと導く手助けとなる。それは、光の道標...

3 毛原大樹 Kehara Hiroki

このタワーは地上の情報をルーフトップの住人に提供し、それによってルーフトップを地上と孤立させないための施設です。また、アンテナタワーの形状から、この都市のいろんな事を読みとくことができます。

4 コモレビデザイン Komorebi Design

突然屋上に現れた街。小さなほんのりとしたあかりを一つ一つ浮かべ、もう一つの地形をつくりました。